

参加者らが和僑ネットワークの役割などへの認識を深めた「和僑アジア大会」26日、那覇市のザ・ナハテラス



25日に那覇市のザ・ナハテラスで開幕した「第2回和僑アジア大会2010 in OKINAWA」(主催・和僑総会、沖縄和僑会) 2日目は26日、セミナーや講演、名刺交換会などを行う本大会や大交流会が開かれた。参加者らは経営者や研究者らの講演などを通し、海外進出を見据えた人的ネットワーク構築や次代を担う人材育成の重要性に対する認識を深めた。

本大会であいさつした和僑総会の筒井修会長は「21世紀はアジアの時代。中国人のネットワークである華僑に学び、アジアだけでなく世界中に和僑のネットワークを築きたい」と抱負を述べた。本大会ではまた、2011年秋ごろに開催予定の第3回大会を中国・上海で開くことを正式決定した。従来の組織名「和僑会本部」を「和僑総会」に変更したことも報告された。約300人の参加者は、本大会での名刺交換会やその後の大交流会を通し、海外進出に向けたビジネス交流を積極的に行った。

# 「和僑組織網」拡大へ意欲

## 大会2日目 次回は上海で開催

沖縄和僑会の金城和光代表幹事は「組織同士の形式的な付き合いではなく、交流を続けることで信頼が生

## 目標明確にし 期限付け実現

### メルマガ発行の武沢氏



武沢 昌弘氏

香港和僑会顧問で経営者向けメルマガ「メルマガ」を発行するがんばれ社長(名古屋市中)の武沢信行社長は「写真」は、26日の和僑会アジア大会のセミナーで「大交易時代の和僑流通経営」夢を實現する和僑たちの経営原則」と題して講演した。武沢社長は会員数約3万2400人の経営者向け「がんばれ社長」を発行し、時

事情や経営者同士の交流の中からビジネスのなかから「切だ」と述べた。

## 「地縁、血縁、業縁」 沖縄の可能性強調

### 香港貿易局の古田氏



古田 明子氏

「第2回和僑アジア大会2010 in OKINAWA」の本

席代表の古田茂美氏に写真が「香港から見た日本の未来」と和僑ネットワークと琉球の果たす役割」と題して講演。古田氏は「日本人は公私を分けるが、中国人は私と私がつながって公

となる。それを理解する必要がある」と強調し、華僑に做った和僑の可能性に期待を寄せた。古田氏は日本の経済的地位が世界的に低下している状況を紹介。中国進出を目指す日本の中小企業の課題として「語学や海外ビジネス知識を持つ人材が不足している」と話し、「背後に華人社会を持つ香港といかに組むかが重要」と指摘した。古田氏は中国の経済改革開放が華僑経済との連携から始まった背景も紹介し、「華僑ネットワークが中国の『エアベッド』として機能しているため、今後の中国経済は課題を抱えつつも落ちることはない」との展望を示した。その上で、中国のように「地縁・血縁・業縁」を持つ沖縄や九州の可能性を強調し、「和僑ネットワークをアジアで広げていってほしい」とエールを送った。